

アレルギー緊急時対応マニュアル

事業主・制作：香川県小児科医会
協賛：香川県医師会、日本小児科学会香川地方会



子どもに異変？
アレルギー症状かもしれないと考える
(食物の関与にこだわらない)

- ★発見者(リーダー代行)
- 子どもから目を離さない
 - 養護教諭または他の教職員を呼ぶ
 - マニュアル・個別対応シートを準備
 - 初回の緊急性の判断

原因・責任の追及よりもまず行動



緊急時の役割分担

★マークの3人は必要！

- ★リーダー(校長・園長)
- 現場到着後リーダーとなる
 - すべてを把握する
 - 当マニュアルに従い判断・指示
 - 内服の指示/介助
 - エピペン®使用/介助
 - 心肺蘇生・AEDの使用/介助
 - 保護者への状況説明

- ★観察係(発見者・養護教諭)
- 症状の観察と緊急性の判断
 - 子どもに声をかけ続ける
 - 症状チェックシート(別紙)に従い、処置の必要性を判断
 - 内服させる
 - エピペン®使用/介助
 - 心肺蘇生・AEDの使用/介助



- 準備係
- 現場へ必要物品を運ぶ
- エピペン®・内服薬
 - AED
 - 当マニュアル
 - 症状チェックシート など

- 誘導係・その他
- 救急車の誘導
 - 他の子どもの対応など

- 記録係
- 症状の観察
 - 症状チェックシート(別紙)記入
 - 状況に応じて処置の介助 など

- ★連絡係
- 校長・園長を現場に呼ぶ
 - 準備係へ連絡
 - 救急車を要請→誘導係に連絡
 - 記録係・その他人を集める
 - 保護者に連絡

安静を保つ体位



ショック体位

ぐったり・意識もうろうの場合
血圧が低下している可能性がある
仰向けにして足の下に枕などをいれ
15~30cm高くする



吐き気・おう吐がある場合
吐物による窒息を防ぐため
からだを横に向ける



呼吸困難が強く横になれない場合
上半身を起し
椅子の背もたれなどに寄りかからせる



緊急性が高い症状はあるか？5分以内に判断する！

- 消化器の症状**
- 持続する強いおなかの痛み(がまんできない)
 - 繰り返し吐き続ける

- 呼吸器の症状**
- のどや胸がしめつけられる
 - 声がかすれる
 - 犬が吠えるような咳
 - 息がしにくい
 - 持続する強い咳こみ
 - ゼーゼーする呼吸

- 全身の症状**
- ぐったり
 - 意識もうろう
 - 尿や便をもらす
 - 脈を触れにくいまたは不規則
 - 唇や爪が青白い

「なし」 どれかひとつでも 「あり」

- その場で内服薬あれば飲ませる
- 可能なら保健室へ移動
→必ず同伴・できれば歩かせない
車いす・担架での移動も考慮
エピペン・緊急薬あれば持参
- 校長・園長に連絡
- 保護者に連絡

- 助けを呼び、人を集める
(大声で、または他の子どもに呼びに行かせる)
- その場でただちにエピペン®使用
- 迷うときはエピペン®使用
→ **エピペン®使用の手順(裏面へ)**
- 救急車要請(119番通報)・・・連絡係へ指示
→ **救急車の要請で伝えること(裏面へ)**
- ショック体位・嘔吐あれば横向き
- その場で安静・動かさない
- 可能であれば内服させる

- 5分ごとに症状を観察
 - 症状チェックシート記入
 - 症状チェックシートに従い行動
- **症状チェックシート(別紙)**

反応がない・呼吸していない

- 心肺蘇生・AED → **AED手順(裏面へ)**

どれかひとつでも「あり」

エピペン®使用の手順：迷うときは使う！

□ 子どもに声をかけながら、できるだけ複数の教職員で対応する

① エピペン®を打ちやすい体勢をとる

- 仰向けにねかせる(必要時はショック体位に)
- エピペン®使用者は、子どもの脇に座る
- 介助者は、エピペン®使用者の反対側に座り、右のように、子どもの足の付け根と膝を抑える
- もうひとり介助者がいれば上半身を抑える



② エピペン®をケースから取り出して 利き手で「グー握り」する

- オレンジ色を下にして握る
- 握ったら持ちかえない



③ エピペン®を打つ位置(★)を確認 自分の位置と反対側の太もも前面外側 かつ 介助者の両手の中間

- 服の上から打ってよい
- ポケットの中を空にする



④ エピペン®を打つ

- 青い安全キャップを上引き抜く
- オレンジ色の先端を★に軽くあてる
- そのまま垂直にグッと押しつける
- 「パン！」と音がしたら、押しつけたまま3秒待つ
- エピペン®を太ももからゆっくり離す
- オレンジ色のニードルカバーが伸びていればOK
- ※オレンジ部分が伸びていなければ④をはじめから行う



□ 子どもに声をかけてから打つ
「エピペンをするよ！じっとしてね！」

⑤ その後

- 効果は数分で出現し約15分持続
- 注射部位を軽くもむ
- 救急車が来るまで症状の観察を続ける
- 使用済みエピペン®はケースに入れ、病院へ持参する
- (2本目のエピペン®がある場合)
10分後にも「緊急性の高い症状」があれば2本目のエピペン®を使用



心肺蘇生とAEDの手順

1 反応の確認

- 肩を叩いて大声で呼びかける

同時に

2 救急要請 119番

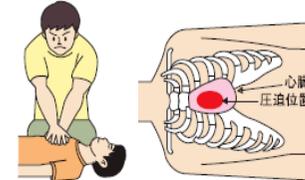
- AEDの手配
- 人を集める

反応がない

3 呼吸の確認

- 胸とお腹の動きを見る
- 10秒以内に判断

普段通りの呼吸をしていない



4 胸骨圧迫

必ず

- 胸の真ん中を両手で圧迫
- 強く(胸の厚さの約1/3)
- 速く100回/分
- 絶え間なく(中断は最小限に)

人工呼吸

可能なら

- 2人以上で対応できれば実施
- 胸骨圧迫30回+人工呼吸2回
- 鼻をつまんで、下顎挙上
- 約1秒で胸が上がる程度に吹き込む



5 AED

- 準備中も胸骨圧迫をできる限り止めない
- 電源を入れて音声ガイドに従う
- 電極パッドを貼る(右上前胸部、左下側胸部)
- ショックの指示があったら、ショックボタンを押す
- 直ちに胸骨圧迫を再開



救急車の要請(119番通報)で伝えること

「アナフィラキシーでの救急要請です！」

- 施設名、電話番号、住所 ※事前に記入しておく

個別対応シート
を見ながら連絡

- 子どもの名前、性別、年齢
- 現在の状況、原因わかれば伝える
- エピペンの有無、使用したかしていないか
- 私(通報者)の名前、携帯電話番号※
※その後も救急隊とすぐ連絡が取れるようにしておく

